



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(第2版)2016年版、名古屋市長官庁環境政策推進部環境政策推進マニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東区白壁4丁目計画	階数	地上6F地下1F
建設地	名古屋市東区白壁4丁目83番	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	82 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2020年6月2日
敷地面積	1,130 m ²	作成者	
建築面積	635 m ²	確認日	2020年6月2日
延床面積	3,449 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.3 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	標準計算 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 3.1		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.8	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.4
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 白壁筋という名古屋有数の高級住宅街の景観を崩さないように、マンションらしさを取り除き、道路面に対してボリュームを押えた建築とした。 和の建築を目指し、道路面には瓦屋根の門を設え、白壁筋に樹木がはみ出すように植栽をし、緑豊かな白壁にそぐう建物とした。		
Q1 室内環境 開口部にはLow-E複層ガラスを採用することで高い断熱性能を確保し、快適な住環境としている。また、シックハウス対策として全面的にF☆☆☆☆を採用している。	Q2 サービス性能 建物を長期利用できるように日本住宅性能表示基準「3-1 劣化対策等級」における等級3を確保している。また、階高を確保することで広々とした天井高を確保している。	Q3 室外環境(敷地内) 10%以上の緑化を行った。道路面にはみ出すように中木、高木を植栽することで近隣にも配慮した。南側にはできるだけ既存樹木を残し、さらに高木や中木を植栽することで、緑豊かな住環境を作ること心掛けた。
LR1 エネルギー 建物外皮性能は日本住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たし、一次エネルギー消費性能についても建物全体のBEIが0.88。	LR2 資源・マテリアル 節水コマや節水型便器の採用により環境負荷低減に寄与する。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO₂排出率が一般的な建物(参照値)と同等。 ディスプレイを設置し生ごみの軽減を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)東区白壁4丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				3.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.6



2. 自然共生

評価点 = 3.1



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。